

Second Column



歯ならびのカタチ

vol.36

宮原歯科医院 院長 宮原 猛



新年を迎え、はやひと月が過ぎました。月日の流れは早いものだと年々感じます。日々関わっている子どもたちの成長の早さにも驚きます。半年も顔を見ずにいると、まるで別人?と自分の目を疑うこともしばしばです。

近年はお子さんの歯列矯正を希望する親御さんが増えてきました。大人が見てどう評価しようが、その子の今の歯ならびには理由があります。受け口・出っ歯・すきっ歯・乱ぐい歯・八重歯…どれもこれも矯正治療の対象とされているわけですが、病気ではありません。歯ならびかみ合わせは、身体全体のバランスの結果として成るべくしてそうなっているのです。当院では、子どもでも大人でも歯列矯正を希望される方へまずそういうお話をいたします。特にお子さんの場合は成長と歯ならびが大いに関係しています。身体だけでなく、心の成長もです。いやむしろ心のほうが重要かもしれません。お子さんの歯列矯正というと、早くから始めて中学生までの計画を別の医院で提案されたとの話をよく聞きます。子どもの歯ならびは、心身の成長とともに自然に整うことも多いので当院では乳歯時期→生え変わり時期(前歯→奥歯)→永久歯時期と、次のステージへの成長前の「今の時期」において必要最小限で最短の矯正を提案します。お子さんの興味対象や姿勢、親子の関係性なども参考に個別の矯正メニューを提案しますのでご安心ください。

昨今は予防医学や予防歯科が謳われていますが、過度な予防は逆に身体の重要なサインを見逃すことになりかねません。危険を遠ざけすぎて子どもに過度の安全ばかり与えていると、その子の本来持っている身体の弱点や心の弱さに気づかず健全な成長を妨げてしまいます。そういう観点から、歯列矯正についても先回りしすぎの昨今の風潮には懸念を感じずにはいられません。子どもは誰もが素晴らしい可能性と個性を持っていますよね?むしろ歯や歯ならびをきっかけに、お子さんの素晴らしい個性をもっと引き出すお手伝いをいたします。

※「むし歯のキモチ」お話を開催中(医院・オンラインにて)

宮原歯科医院

福岡県久留米市大石町338
TEL.0942-32-9199 ①miyahara_dc@yahoo.co.jp

当院は自由診療のみ行っています。診療の前にあなたの悩み・望みをまずはじっくりお聞かせください。



とせん 徒然なか日記 vol.17

「南国」

野中成利税理士事務所 野中 成利



企業のかかりつけ税理士を目指して、独立後、はや15年弱。近年、中小企業診断士に。久留米高専の後、九州大学へ。下戸の酒好き。猫好き。珈琲甘いもの好き。セミナー講師もやっています。

寒い日が続く。ここ九州は南国であるはずだ。ショッピングセンターに行けば、ヤシの木が街路樹に植えてある。小学校にはソテツがある。南国だ。何度も言う南国なのだ。しかし、いくら言ったところで窓の外は雪は、僕の心を温めてはくれず。心頭滅却すれば、火もまた涼しと言った昔の禅僧の言葉が嘘だったのだと思わずにいられない。修行が足りないのだろうか。もう一度、窓の外を見ると、マッチ売りの少女になったかのような不安な気持ちになってしまふ。はたして、マッチは売れるのだろうか。このままだと、八甲田山の雪山行軍などを思い浮かべて部屋の中で遭難してしまふそうなので、どうにか頭を切り替えて楽しいことを考えようと思ふ。

南国九州といえども、スキー場がある。昨年、佐賀県唯一のスキー場であった天山スキー場が惜しまれつつ廃業してしまった。学生の頃に初めてスノーボードをしたのが天山スキー場であった。バブル期にはスキーが一世を風靡していたが、僕らが学生の頃にはスノボ(スノーボード)がカッコいいということになっており、スキー場という名前なのにそこに居るのはスノーボーダーばかりであった。うどんを食べにいったはずなのにソシかなかったらなんか違うし。シャワーで頭を洗おうとしたのにリンスだったら困る。おにぎりを食べようとしたらおむすびだった。まあこれはセーフか。ともかく、皆はスキー場にスノボをしに行ったのである。

学校が午前中で終わったときに、男友達の「スノボいこ」という言葉に誘われ、そのままの姿で1時間半後には天山スキー場のゴンドラに乗っていた。滑り方はわからない。何とか滑るよというどう考えても何ともならないアドバイスを受けゴンドラに乗っている。初めての体験で楽しんで頭の中に流れる曲は広瀬香美の「ゲレンデが解けるほど恋したい」であるのだが、10秒に1度程度、どうしようという気持ちがドナドナにチューニングを変える。ゴンドラが上についた。スキー場である。だが、ここは南国九州。雪が少ないのだ。つまりコースが狭い。ここで、どうやって雪の少ない場所でスキー場を作っているかを考えてみよう。夜中の寒い時間に水を噴射し、人工的に雪をつくる。雪は、日中溶ける。しかし夜中は山なので平地より寒く凍る。溶ける。凍る。溶ける凍る。これを繰り返すことによってガッチガチの水の滑り台ができるのである。間違ってもわーい雪だと飛び込んではいけない相手は雪ではない、氷なのである。そこに放り出される、哀れなドナドナ君。ボードと滑り台が摩擦しガリガリという激しい音を出しながら。南無さん!滑った。滑ったと同時にこけた。氷の滑り台は容赦ない。受け身などとれるはずもない、全体重が尾てい骨に乗っかる。これは骨折したのではないか。氷の粒を巻き込みながら、滑り落ちていった。滑りながら考えてた。あっこれは魚河岸のマグロだと。冷凍マグロが、魚市場で滑っているのを見たことがあるだろう。マグロは本体が凍っているが、こちらと違うところは地面が凍っているだけで相対的には同じ状況だ。なすすべなどない。10秒後、僕は白い発砲スチロールの中でかき氷に囲まれた冷凍のマグロのように、目をまん丸にしてスキー場の雪の上に転がっていた。

何度、魚河岸のマグロになっただろう。なんとか滑れるようになった。若いて素晴らしい。スノボウェアでないダウンジャケットは水を吸っている。手袋だって防水でもない。尻が痛いことを除けば、なんと楽しいのだろう。

翌日、高熱を出した。あれ?これって楽しい思い出なのだろうか?

野中成利税理士事務所
久留米市御井旗崎1-10-22-1F
TEL.0942-48-0660



SECONDでコラム読んでくださった方30分間 税務相談無料です。
※その旨お問い合わせの際にお知らせください

家具屋の思い出話 (16) 「お腹が空いた時の ちっちゃなパンのお話」

Cozy Flat オーナー 仲洋史



cozyflat5252



Cozy Flat
筑後市四ヶ所菅原田460-1
TEL.0942-52-3480
営:10:00~18:30
休:水曜、第2・4木曜

午後3時を過ぎてつくづくお腹が空いていた。そういえばクリームの入ったちっちゃなコッペパンを妻が持たせてくれた話を思い出した。ありがたい。実にありがたい。我が妻ながら優しさのかたまりのように思ってしまう。ラップに包まれたパン。近頃夕方4時頃になると必ず倒れそうになるくらいお腹がすく。そんな時は本当にありがたい。砂漠に不時着した飛行機乗りが村人に発見され、水を与えられて喜びの涙を流している話を思い出しながらパンをいただく。腹が鳴り、手は震え、意識が飛びそうになくさつとパンのラップを外す。外す…はずそうとする…。ラップの端がわからない。すぐさま残された力を振り絞りメガネを探す。うっすら汗をかいている。メガネがあった。これで見える。見えるはずだ。だけども見えない。いや見当たらない。探しても探しても見当たらないラップの端。カシカシと引っ掻いてみるが無駄な努力となる。こういう事を「徒労」と言

うのだなと薄れる意識の中で思う。そんなことに気をめぐらす事こそ無駄なんだと、フフフと笑いが出そうになる。時間の経過と共に諦めの境地に入り込む。神はもう私を必要としていないのか!浄土真宗ながら思ってしまう。飛ぶ意識の中で、妻に一つだけ褒められたことを思い出す。「貴方は本当に逆境に強いわね!感心する。」そうだ私は逆境に強いのだ。もう一度チャレンジしよう!出来る!私には出来るはずだ!震える手でラップの端を探す。もう一度、もう一度…。カサツと指の先で光を反射しながらラップの端がひるがえった。凍える心と震える手でそろりそろりと巻かれているラップを外した。パンが出てくる。パンの感触が手に伝わる。おもむろに裸になったパンを持った私は獲物を仕留めたライオンのように背筋を伸ばし、周りを見渡し、余裕のある風情で一口くちにした。奈落の底から這いあがったばかりの私の手は震えていたが、逆境に打ち勝った充

実感と達成感の中でクリームが甘さ、程よいパンの硬さと共に妻の優しさが心に広がった。よかった。私は生きている。間違いなく今生きている。神はまだ私を必要としているのだ!浄土真宗だけど。今日からもっともと家族、親戚、友達、日本中、いや世界中の人たちに優しくする事を誓おう。ラップが外れたのだから。ちっちゃなパンを食べられたのだから。折しも妻からの電話が鳴った。「もしもし、今日は…」妻の言葉を遮り「えーとね今日は普通に帰るよ。良かったらさあ、外で食事でもしない?」「あら、どうしたの?」「えー別に何にもないよ。まっ、しいて言えば無事に生きてるって事かな。」「何言ってるのよ。意味わかんないわよ。」「えへへ、分かんないじゃない?」「ありがとうね。」電話を切った時には手の震えはなくなっていて、何とも言えない温かさが心に満ちていた。

コロナ禍の モヒカン備忘録 vol.2

モヒカンらーめん味専家 店主 於保 貴久



5月に新型コロナウイルス感染症の位置付けが、「5類」に引き下げられるという。ようやく先が見えそうなコロナ禍。正直な話、コロナ禍より今が一番苦しい。世界情勢、物価高も重なり年末年始も思ったより客足は伸びなかった。いつもどうしているか、どうやって資金を集めようか、とにかく必死だ。自分の力だけではどうしようもできないと悟った時、流れに身を任せてみようという気持ちを切り替えることにした。すると色々な縁が重なり、博多店が2月下旬にオープン、そして2月上旬、本店横に新たな形態のお店をオープンすることが決まった。博多は以前から出店を狙っていて、デイトス店に決まった。いつも、久留米で待っているだけではダメだと思っているので、博多店は久留米ラーメンの魅力とモヒカンブランドをPRできる絶好の機会だと考えている。本店横のお店は「元祖チゲジロー本舗」とし、二郎系のラーメンにチゲそばを合わせた完全オリジナル商品を販売する。スタッフの問題を解決するため、完全キャッシュレスシステムにし、忙しい時にスタッフが行き来し対応できるように厨房を本店とドア一枚でつなげることにした。

今季の方針を「新化・深化・進化」と掲げて、どんな時でも挑戦をやめない決めてる。どんなに忙しくても県外の催事にはなるべく参加し自身のお店をPR(催事は現金収入が大きいのでとても助かるのも事実)、セミナーや経営の会にも参加し、学びと人脈作りを行っている。この大変な時期を乗り越えるため、やはりスタッフたちと家族の支えが大事で、改めて大切さを身に染み込んでいる。そして22歳の長男が本格的にお店に入り、ラーメンの修行を始めることになった。これからのモヒカンの未来を考えながら、もがいていく日々は続く。

ここまでぶっちゃけて書くのも悩むところではあったが、このコロナ禍、自分も含め頑張っていない経営者はいない、苦勞していない経営者はいない、そこを知ってもらえたらと思い書き留めておく。

モヒカンらーめん 味専家 @mohikanramen
久留米市津福本町221-11 / TEL.0942-39-6786
営:11:00~15:00、17:00~20:00 / 休:なし



Cinema

詳しくは10pページ「プレゼントコーナー」をご覧ください

『湯道』
2月23日(木・祝)公開



亡き父が遺した実家の銭湯「まるきん温泉」に突然戻ってきた建築家の三浦史朗(生田斗真)。帰省の理由は店を切り盛りする弟の悟朗(濱田岳)に、銭湯を畳んでマンションに建て替えることを伝えるためだった。実家を飛び出し都会で自由気ままに生きる史朗に反発し、冷たい態度をとる悟朗。そんなある日、ボイラー室でボヤ騒ぎが起き、巻き込まれた悟朗が入院することに。史朗は弟の代わりに仕方なく店主として数日間を過ごす。不慣れながらも湯を沸かし、そこで様々な人間模様を目の当たりにした史朗の中で徐々に凝り固まった何か解かれていくのであった……。

【問】T・ジョイ久留米 https://tjoy.jp/t-joy_kurume

esthetic Yuri

エステティック ユリ

美顔 ボディ リンパ

お肌のトラブル、お肌の悩み、ご相談に応じます

〈完全予約制〉TEL.080-3983-1582

〒834-0006 八女市吉田281-13

